

令和2年度 第1回 タウンミーティング

○開催日時 令和2年2月5日（金）午後2時～午後3時

○開催会場 江南市役所 第3委員会室

○開会あいさつ

本日は、大変お忙しい中、タウンミーティングにご参集いただきまして、ありがとうございます。日頃より江南市政進展のため、それぞれのお立場で、ご理解、ご協力をいただいておりますことを感謝申し上げます。

これまで、毎年タウンミーティングを開催してきました。最初の頃は、テーマを掲げて地域の皆さんに集まっていただき開催しましたが、単なる説明会で終わることが多くありました。そのため、かたちを変え、出来るだけ身近な存在でいたいこともあり地域の皆さんの所へ出向き、また、市内の大学生、高校生、中学生など、様々なかたちで意見交換をさせていただきました。

昨今のコロナ禍の中、なかなか会議を開催しにくい状況になり、3蜜を避けながら出来るだけ短時間で意見を聞くことは非常に難しいことではありますが、今年度最初のタウンミーティングにお集りいただきました。本日この後、市民協働・市民活動推進協議会の会議が開催されるとお聞きしております。協働の言葉につきましては、元々は市民参加から始まり、市民参画、市民協働に変わり、市政を推進していくうえで、市民の皆さんの力を借り、また、それぞれのノウハウや特徴を活かしながら、一緒に前へ進めていくことが大きなテーマでございます。

本日は、大変限られた時間ではありますが、ご意見を頂戴しながら市政の参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○発言内容

市長

活動の中で、変革が求められていることや要望などをお聞かせください。

公募委員の方につきましては、江南市の協働についてご意見を伺いたいと思っております。

中村 祥 (NPO 法人こどもと文化の森)

イベントを企画しましたが、コロナの影響で延期となりました。活動は公共施設を利用していますが、会場の予約が取れず、スケジュールが立てられません。

例えば市民文化会館では、昨年コロナで延期となったイベントの優先予約により、土日は予約できない状況です。

また、コロナの施設利用制限については、弦楽器は良いが、吹く楽器の利用は制限されているなど、制限が細かく、また、市町村によっても異なります。一見どこにも書いていないのですが、問い合わせしてみると分かることがあり、苦労しています。

市長

コロナによる制限があり、特に会場に苦労しているということですね。

まずは、皆さんそれぞれのご意見を聞きたいと思います。

坂口 悦子 (NPO 法人キッズサポート江南)

まちづくりを推進するためには、より多くの人に、江南市の活動や現在起きていることを伝え、情報の発信力をあげることが必要だと思います。例えば、SNSなどを活用することが良いと思います。

市長

できるだけ多くの人に情報が伝わるようにということですね。

ありがとうございます。

早瀬 裕子 (江南市国際交流協会)

外国から来ている子どもについて、子どもたちが帰宅後、オンラインで日本語教室を行っていますが、各家庭に Wi-Fi 環境がない場合があり、子どもたちに Wi-Fi 設備やタブレットの配布または貸し出しがあるとありがたいです。

また、多言語が話せる子どもが増えていて、その子たちを何らかの形で伸ばしてあげたいと思っています。

市長

教育の面で、タブレットや Wi-Fi などの活用をもっと進めてほしいということですね。

宮道 末利子 (NPO 法人コミュネット江南)

布袋駅複合公共施設にできる市民活動の拠点に、気楽に集えて、参加しやすい環境を作っていただきたいと思います。また、布袋駅複合公共施設に行くための交通の便について、例えば江南団地から布袋駅に行くためには、バスと電車乗り継がなくはならないため、ルートを作っていただけると助かります。

地域包括支援センターについて、江南市は3つのセンターがありますが、それ

ぞれにカラーがあり、ばらつきが出ています。できれば江南市が一丸となった地域包括ケアができるような体制を整えていただきたいです。

市長

集える拠点が必要ということですね。それから地域包括ケアについて、悪い意味ではないかもしれませんが、カラーが出すというよりも、一丸となったケアができての方が良いのではないかというご意見ですね。

地域包括ケアについては、本日会場に担当がおりませんので、事務局から担当にお伝えさせていただきます。

中村 健一（しえなん 代表者）

他市町の市民活動を見学に行き、活性化している市町と江南市を比較すると、江南市は様々な団体が活動しているのですが、散発的で機能していないというのが現状だと思います。

他市町では、自然に集うセンターがあり、交流ができています。江南市にも西分庁舎がありますが、誰が来ていたのか、交流があったのかとなると他市町とは歴然とした差があります。布袋駅東複合公共施設にできるスペースがどうしたら機能するか工夫が必要だと思います。

また、活性化している市町を見ると、大学があり、市民活動を研究されている教授や学生がいて、市民活動が実践しやすい現状にあると思います。

また、あいち万博開催後、瀬戸市では市民活動が活性化しています。行政の後押しで軌道に乗った例であり、江南市では市民活動が活性化するきっかけや行政の後押しがこれまでなかったのではないかと思います。

お金の面では、市民活動補助事業の予算枠が減っている状況ですので、団体を援助していく予算の増額も必要だと思います。

先ほど SNS の活用の話が出ましたが、情報共有という面では、私も難しさを感じています。イベントを開催するときに、参加者を集めることに苦労しているのが江南市の現状だと思います。

また、情報共有には様々なツールがありますが、直接届けるために、防災行政無線戸別受信機（防災ラジオ）を全世帯に置き、時報とともに行政の情報をお伝えするというのはどうでしょうか。昔は有線放送がありましたが、勝手に流れるものですから必ず耳に入ります。近隣では、扶桑や大口では防災行政無線戸別受信機で時報とともに様々な情報が伝えられていると思います。

江南市の防災行政無線は聞こえない。近いと音が大きすぎて、遠いと小さい。そういった意味で防災行政無線をより機能化するためにも、防災行政無線戸別

受信機（防災ラジオ）が必要なのではないかと思います。

市長

市民活動全体をまとめるコーディネートが必要だという意見もあり、どこが中心となりコーディネートするかについては、民間で知恵を出し合うのが良いと考えています。おっしゃる通り、他市町と比べて盛り上がりが少ないということは、私も感じております。

ご発言の中で、「人・物・金」は大事な要素であるということをご改め感じさせていただきました。防災行政無線につきましては、後ほどお話しさせていただきたいと思います。

それでは、公募委員の方には、今の議論や提案を聞いて感じたことやご自身のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

深尾 俊一（市民公募）

勤め先の近くだった安城市には駅前に大きな図書館があり、図書館の横に大きな民間のスーパーがあります。元々は病院だったらしく、人の出入りも多かったため、代わりに交流が図れるものはないかということで図書館を作ったそうです。学生が学習するスペースもあり、多くの人が集まっています。その他にも起業を手助けするブースもあります。

今後の布袋駅複合公共施設がどのようなようになっていくか楽しみにしています。

市長

ありがとうございます。江南にはずっとお住まいだったのですか。

深尾 俊一（市民公募）

平成17年から住んでいます。定年退職し、時間もできましたので、地域のことについて知りたいという気持ちがあります。

市長

資源収集など独特なところもありますので、またご意見がありましたら伺いたいと思います。

大澤 美希（市民公募）

私は、4月から大学生となり、これまで市民活動に参加したことはなかったのですが、地域づくりの活動に興味があったので、協議会の委員に応募しました。それから市民活動に触れて、思ったことを発言したいと思います。

この協議会に参加したことで、多くの団体が活動をしていることを知りました。SNSを活用し、若者が市民活動について知る機会を作ることや市民活動し

ていない人にもどのような活動が必要か意見を募った方が良いと思います。若者は自分の興味のあるものしか見ないので、興味を持たせる工夫も必要だと思います。

また、防災行政無線の話も出ましたが、高齢者は SNS を活用していない方もいますので、情報格差が縮めることも必要だと思います。

市長

ありがとうございました。情報発信の大切さを改めて感じました。

防災行政無線の話が再び出ましたが、後ほどお話ししたいと思います。

伊藤 由香（愛知江南短期大学 学長）

私自身は、江南市で NPO 活動をしていないのですか、この協議会に携わって 4 年目になります。その中で感じることは、活動団体は一生懸命なのですか、活動が広がっていないことと団体の高齢化が進んでいるということです。若い方が加入しても、子育てで忙しい時期は、市民活動の参加は難しいと思います。

また、市民活動の内容やどのように関わればよいのか情報を得る場所がないと思います。短大についても、NPO 活動を紹介する情報は無く、大澤委員が言われたように 18、19 歳の子に情報を伝えるには工夫が必要だと思います。

そういう面でも布袋駅複合公共施設には、人や団体間をつなぐファシリテーターが常駐すると良いと思います。市長がおっしゃられたように NPO（民間）に任せれば良いと思います。ファシリテーターをお願いして、その役を担う NPO に資金援助ができたらと思います。

市長

ありがとうございました。すごく参考になりました。

佐藤 正之（名古屋経済大学経済学部教授 地域連携センター副センター長）

学生の大澤委員に質問ですが、住んでいるのは江南だと思いますが、身の回りでボランティア、市民活動に興味のある同級生はいますか。

大澤 美希（市民公募）

いません。

佐藤 正之（名古屋経済大学経済学部教授 地域連携センター副センター長）

ありがとうございます。私の勤める大学でも、単純に情報を提供するだけでは学生は参加しません。意識が高い学生は参加しますが、数は多くありません。ただ、全く興味がないのではなく、活動に参加する「入り口」が分からないという意見が多く、じゃあ「入り口」をどのように作るか学内でも課題になっています。

カリキュラムに組み込むのが良いのですが、中々そうもいきません。

地元で年齢が若いうちから、市民活動に参加できる仕掛けと仕組みがあると地域で長く継続して活動してくれると思います。それをサポートできる仕組みというのは、市民協働単独では無理だと思うので、もう少し窓口を広げる必要があると思います。

コーディネーションや市民活動を民間で運営するときに、人材も地元から出してほしいと思います。例えば、名古屋にはコーディネーションが得意な団体がいるとは思いますが、地元ノウハウが残りません。

人材育成に時間はかかりますが、意識が高くて、活動の経験をしている人の次のステップとして、コーディネーションする能力を高めてもらおうと、活動の継続性、活動の拡大、参加する人の拡大が見込めると思います。

また、私の所属する大学は犬山にあって、犬山でも同じような課題があるので、情報の共有すると尾張の市民活動の情報交流が活発になっていくのではないかと思います。

市長

ありがとうございました。私自身も若い時は高校、大学と進学するにつれ、市民活動への参加意識が希薄になっていったことを思い出しました。お祭りで若者に役割を与えるなどして市民参加を促す地域もありますが、興味を持ってもらうことは大変難しいことです。佐藤委員のお話で改めて情報を届けることの難しさを感じました。

さて、皆様のご発言にも出てきましたが、布袋駅複合公共施設内の図書館は、従来の図書館の約3倍の広さとなります。相当な人の出入りを見込んでおり、若い世代も集える施設になると思います。

布袋駅複合公共施設は、市民活動の拠点ということもあり、地域の方も使うことができるスペース、コンサートや読み聞かせスペースなど、交流ができるスペースを予定しており、私自身も大いに期待をしています。

次に、防災行政無線についてお話をさせていただきたいと思います。防災行政無線については、過去にも多くのご意見をいただきました。

災害時のことを考えた防災行政無線ですので、一度に速報として、多くの人に伝えなければなりません。ラジオ放送や緊急メール、SNS という手段もありますが、それぞれに使えない方もいることから現在の防災行政無線を整備したという経緯があります。

現在、一宮と犬山にFM局と協定を結び、有事の際には、情報を配信していた

だけることになっています。

さて、今日の委員の皆様の発言から情報発信・情報共有が大きな課題であると感じました。若い人たちにどう興味を持ってもらうか、またコーディネートをする人材をどう育成していくかということも今後の課題だと感じました。

総合的に何かご意見がありましたら、ご発言をお願いしたいと思います。即答できない部分につきましては、記録を取っておりますので、返答ができるものについては、返答し、次の機会にでもご連絡をさせていただきたいと思います。

宮道 末利子 (NPO 法人コミュネット江南)

小・中学生は、市民活動に興味を持って参加してくれるため、今後イベントをする際に中学生に声を掛けたいと思っています。

布袋駅複合公共施設に市内小・中学校の活動内容の情報が網羅されている場所があり、また市民活動をしている団体が情報発信できる場所があると良いと思います。

市長

小・中学生までは至っておりませんが、図書館の説明会を開催した際に高校生にも参加してもらい、高校生の意見も聞くことができました。市民活動に参加する「入り口」という話もありましたが、どこかでそういったきっかけができ、意欲がわいてこれば、本来の市民協働、市民活動ができるのではないかと思います。

中村 健一 (しえなん 代表者)

ボランティアという面で見ると、社会福祉協議会に関係する団体も活動されています。縦割りではなく、市民活動団体と社会福祉協議会で連携できないかと思っています。

連携という面では、企業も社会貢献の一環として、活動を行う場合もあります。

小牧市では、企業が市民活動の会議に参加している例もあります。布袋駅東複合公共施設に商業施設があり、一緒にイベントをするのであれば、企業の方も会議に参加されて、スポンサーになっていただくとか、他市町の例も参考にしながら江南市モデルができていかないかなと思っています。

市長

障害者福祉、高齢者福祉、募金活動など社会福祉協議会には大変感謝しております。

さて、企業の社会貢献の話が出ましたが、このコロナ禍で、たくさんの企業からマスクなどのご寄附をいただきました。社会貢献というお気持ちが多くの中

業にあると改めて感じました。市民活動においても協力しながら進めていければと思います。

連携という点では、「産・官・学・民」が協力し、間もなく「江南カレー」が発売されます。江南市としても特産物を使ったこのカレーを積極的にPRしていかうと考えております。また、特産の「越津ねぎ」が、江南の特産ということが伝わるように「江南越津ねぎ」としてPRしていきます。これも官と民、または産との協働ということになろうかと思ひます。これからも協働を広めていかなければならない。そんな風を感じました。

本日は、大変限られた時間で十分に皆さまからのご意見を頂戴することができなかつたかもしれませんが、皆さんの思ひは感じさせていただけましたし、問題点についても分かりましたので、取りまとめて発表させていただきたいと思ひます。

本日は、ありがとうございました。